



## 読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。  
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。  
(編集部より)

### 女性医師の窓

## シャンソンとバルバラと性的虐待

とどろき医院 轟 千栄子

6月12日、昨年立ち上げたシャンソン同好会の初めての発表会がコスモアイル羽咋の大ホールで行われました。大ホールは1階だけでも収容人数は656人、空席ばかり目立ったらどうしようと内心ひやひやでしたが、500人あまりのお客様が来てくださいました。入場無料とはいえすごい人数です。

この発表会は音響、照明、チラシ・プログラム制作、司会まですべてメンバーでまかなう文字通り手作りの会でした。自前のスピーカーやアンプにマイク、それに小道具を普段は畑仕事に使うトラックに乗せて運びメンバー全員でえっちらおっちら運びます。練習の時から何度となくその作業は続けました。本番前日、はじめて会場の舞台に設置したスピーカーがハウリングを起こし、一時は担当者も頭を抱えましたがピアノの位置を変更してなんとか解決。照明にこったメンバーが使いたくしょうがないライトを下からあてられるとお岩さんになりますからとその何台かの使用をなんとか思いとどまらせました。プログラムの脱字に気づき「明日はどこが間違っているのかお客様へのクイズにしよう。」と、みな疲れ切った頭で冗談を言い交わしながら準備を終え、本番当日を迎えたのでした。

司会進行は私が仰せつかりました。シャンソンはなじみのない曲が多く、司会はシャンソンと歌い手とお客様を結ぶ通訳の役目と考えていたので「暖かい感じのする楽しい発表会」という感想は何より嬉しいものでした。

私が歌った曲はカンツォーネ「心遙かに」と「ナントの街に雨が降る」の2曲

「ナントの街に雨が降る」はシャンソンの中でもマニアックな曲といわれているようで、勧められて今年始めて取り組んだ曲です。シャンソン仲間がすでに歌っていて何度か聞いたことがありましたが、なにかもやもやして心に落ちない曲でした。そこでまず、この歌を作詞作曲したシャンソンの女王といわれるバルバラについて調べました。彼女はユダヤ人として生まれ幼少の頃からナチス占領下のフランス各地を逃げまどい、放浪し、苦難の中シャンソン歌手として成功します。父親は彼女が16歳の時に家を出て消息を絶ちます。10年あまり後、危篤の父が彼女に会いたがっているとの知らせが届き「ナント」に駆けつけますがすでに息をひき取ったあとでした。歌の中の「愛しいあなた・・・」は恋人ではなく父親だったのです。そう考えると腑に落ちました。

未完となった伝記「一台の黒いピアノ」の中で彼女は自身が父親から性的虐待を受けていたことを告白しています。訳詞では「愛しいあなた・・・」となっていますがバルバラは詞の中で別れも告げず愛しているとも言わずに行ってしまった父に「おとうさん、おとうさん」と呼びかけています。

この歌の成り立ちを知って欲しくて曲の紹介の原稿に彼女が性的虐待を受けていたことを書きました。ここで、気がかりなことが、私の曲紹介をしてくれる愛すべきジェントルマンKさんはきっとここを避けて通りたいと考えるだろう。そこで原稿を渡して「ちょっと長いけど・・・」と鎌をかけました。「足したり引いたりしてしゃべります。」ムム「どこを引くの?」「ちょっとここが引っかかって。」「うん、そう思った。でもそこは外せない。」「わかりました。」リハーサルではちゃんと紹介してくれました。が、本番で急いで衣装を着替えて立った舞台袖で聞こえてきたのは「虐待・・・」思わず苦笑いです。でも避けて通ってはだめなのです。複雑な思いでステージに向かいました。